

地水火風

牧野 恒一

東日本大震災以降、各地に大量の仮設住宅が建設され、2012年11月現在、その数は5万3千戸余に上っている。仮設住宅は、その性格上、性能には一定の限界がある。今回は、厳しさがつのる冬を迎え、仮設住宅について火災対策など安全性の問題を考えてみた。

大規模災害の被災者にとって仮設住宅のようないかなる公的支援がなされるのか、被災者が多数に上る場合には、その住生活を安定させて被災地全体の復興を早めることが、国全体としての公益にもかなう、ということだろう。

ため、性能には一定の限界があり、住んでみると問題がたまたま出てくる。断熱性がないため夏暑く冬寒い、結露する、隣の騒音がうるさい、安普請で雨漏りする、隙間

阪神・淡路大震災や新潟中越地震などの後、このような問題点が具体的に指摘され、今回の地震に際しては改善努力もなされたようだが、費用的な問題もあり十分とは言えないようだ。

状態になったら、被災者は二重の苦しみを味わうことになる。自治体など供給側もただでは済まない。

心配なのは、仮設住宅には建築基準法が原則として適用されないこと

「隣棟延焼の防止」
「延焼のおそれのある部分」の防火措置も要注

「仮設住宅の長期化が心配」
仮設住宅に建築基準法の適用がほとんどないのは、設置期間が短いため

だ。疲弊した自治体が大量の公営住宅を早急に建設し、維持していくのも容易ではないだろう。

仮設住宅の火災危険と安全対策

「応急仮設住宅」

応急仮設住宅は、大規模災害で住宅を失った人に、災害救助法に基づき都道府県が一時的な住居として提供するものだ。

「仮設住宅の抱える問題」
仮設住宅は、大量にかつ急いで作る必要がある。税金で作り、2年しか使わないものでもあるので、建設費も安く上げなければならない。この

「安全性はどうか」
住み心地の問題は毎日のことなので、住民の改善要望などとして顕在化しやすいが、火災など安全の問題には気づかないことが多い。だが、安全

「長屋の界壁」
仮設住宅は長屋建てが大半だが、そのうちの1戸で火災が発生した時、隣戸に容易に延焼した

「防火リスクは高い」
仮設住宅は狭い。生活に必要な品物を保管するスペースが十分でないため、壁際に積み上げたり

「隣棟延焼の防止」
「延焼のおそれのある部分」の防火措置も要注

「仮設住宅の長期化が心配」
仮設住宅に建築基準法の適用がほとんどないのは、設置期間が短いため

「仮設住宅の長期化が心配」
仮設住宅に建築基準法の適用がほとんどないのは、設置期間が短いため

「仮設住宅の長期化が心配」
仮設住宅に建築基準法の適用がほとんどないのは、設置期間が短いため

建設費は国からの補助

「仮設住宅の抱える問題」
仮設住宅は、大量にかつ急いで作る必要がある。税金で作り、2年しか使わないものでもあるので、建設費も安く上げなければならない。この

「安全性はどうか」
住み心地の問題は毎日のことなので、住民の改善要望などとして顕在化しやすいが、火災など安全の問題には気づかないことが多い。だが、安全

「長屋の界壁」
仮設住宅は長屋建てが大半だが、そのうちの1戸で火災が発生した時、隣戸に容易に延焼した

「防火リスクは高い」
仮設住宅は狭い。生活に必要な品物を保管するスペースが十分でないため、壁際に積み上げたり

「隣棟延焼の防止」
「延焼のおそれのある部分」の防火措置も要注

「仮設住宅の長期化が心配」
仮設住宅に建築基準法の適用がほとんどないのは、設置期間が短いため

「仮設住宅の長期化が心配」
仮設住宅に建築基準法の適用がほとんどないのは、設置期間が短いため

「仮設住宅の長期化が心配」
仮設住宅に建築基準法の適用がほとんどないのは、設置期間が短いため